

篠山市創造都市推進計画(案)に関するパブリックコメントと回答

受付期間 平成25年8月2日(金)～平成25年9月2日(月)まで 提出者:2人 意見数:32件

No.	箇所	コメント・意見趣旨	回答
1	事業計画全般	市の役割の中で主に、普及活動、人材育成、市民活動への支援が挙げられているが、人材育成、人材誘致についてよくわからない。教育委員会の関わり、支援体制は、人材誘致の具体策はどのようになっているか。	この計画が対象とする範囲では、教育委員会には食育、地域文化教育の分野での人材育成に関わることになります。そのほか、職人学校づくりや集落農業の再生の分野でも人材育成が計画されています。人材誘致については、基本方針の「まちづくりビークルの形成」で外部人材の誘致の重要性を示しており、あらゆる事業において人材誘致の視点が必要と認識して取り組みます。
2	P 19	「集落農業の再生」の継承するための新しい知恵の中に、楽農スクール、里山スクールが挙げられているが内容(何を学ぶのか)、方法(予算的のうらづけ)、対象者(誰に教えるのか)が記載されていない。	新規就農者や農業後継者を育成する「篠山楽農スクール」、里山や森林の整備に必要な基礎的な知識を習得するための講座「里山スクール」を指しており、事業を実施しています。
3	P 22	「特産作物の継承・改良と在来作物の研究」のまちづくりの方向性に神戸大学農学部との連携が挙げられているが、もっと具体的な受け入れ態勢を構築してはどうか。	篠山市では神戸大学と連携協定を結んでいます。大学では、市が提供した施設を篠山フィールドステーション(拠点)として駐在研究員を配置し、まちづくり協議会や篠山東雲高校と連携しながら圃場現場で実習等を行っています。
4	P 22	篠山の冬の名物のぼたん鍋のことが記載されていない。	篠山を代表する味覚として、例示掲載します。
5	計画全般	この計画は結論が先にあって、それに合う材料を集めて組み立てたように思われる。したがって論理的一貫性や社会経済の変化への対応に多くの疑問が残る。	計画本文の「篠山市における創造都市の取り組み」にも記載しているように、この計画は、平成21年に開催した「丹波篠山築城四〇〇年祭」などを契機に進めてきたまちづくりの流れの中にあります。また、策定にあたっては内閣府の特定地域再生事業費補助金を活用しており、事業提案段階から空き家の活用、スローフード、着地型観光を柱としました。
6	計画全般	また、総合計画から借りた1枚を除き、統計表、グラフ、地図など読者の理解を助ける工夫が全然見当たらないのは、最近の自治体の計画書として腑に落ちない。市民に積極的に説明する意欲が欠けているのではないか。	計画内容をわかりやすく表現するよう工夫します。
7	計画全般	この計画の特色はコミュニティを基礎単位に置くところにあるが、社会計画ではともかく、経済計画で成功した事例はわが国だけでなく、先進資本主義諸国では皆無ではなかろうか。理念についての意気込みはよくうかがえるが、成功の見込みについても具体的に数値を挙げて丁寧に説明する必要があるのではないか。	本計画をもとに定める地域再生法に基づく地域再生計画に、具体事業を記載する際に盛り込むこととし、その旨を記載します。
8	P 3 第1 パラグラフ	篠山市の市街地の地域構成に、JR篠山口駅と丹南篠山ICを囲む新興住宅地を含めるべきである。	本計画で示す歴史的な文化や資産を特徴づけるものとして挙げています。JR篠山口や丹南篠山口IC周辺の新しいまちの区域も篠山市を構成することに違いなく、否定的に取扱うものではありません。
9	P 3 第1 パラグラフ	中世を起源とするという認識は、車塚古墳、多紀郡衙、古山陰道の駅、条里地割、大山庄、波々伯部神社、修験道、立杭焼などの存在を無視する暴論であろう。古代から、篠山は丹波国の中核であった。一方で古代の豊かな遺産を否定して、他方で文化の継承を謳うのは矛盾といわれても仕方がないのではないか。	篠山市歴史文化基本構想の本文を参考にしたものですが、古代の豊かな遺産を否定するものではありません。同構想では、「現在の篠山市は、主として中世を起源として近世に大きく発展した農村都市の姿が多様な文化財群とともに一体的に保存継承されており、…」としており、その「主として」を追記します。

No.	箇所	コメント・意見趣旨	回答
10	P 3 第2 パラ グラフ	集落と地区を同じ地域コミュニティで一括するのは誤解を招く。前者(自然村)が基礎的コミュニティであることは間違いないが、後者(行政村)はコミュニティ連合の域にとどまるのではないか。	篠山市地区のまちづくり推進条例で、まちづくり協議会を「地区のまちづくりを総合的かつ主体的に行う団体で、当該地区の住民及び地区の地縁に基づいて形成された団体等で構成され、自律的な運営が行われるコミュニティ組織」と位置付けています。
11	P 3 第2 パラ グラフ	明治時代の旧村という表現は誤解を招く。昭和の合併まで存続した蓄積が重要でないか。	「明治時代の旧村」を「明治時代に形成された旧村」に修正します。
12	P 3 第2 パラ グラフ	都市的な地域と農村的な地域がはっきり区分されている。これを抜きにして篠山の特色は語れないのではないか。	本計画では、篠山市を一体的にとらえており、市内を都市的な地域と農村的な地域で区別していません。
13	P 3 第3 パラ グラフ	農村部では暮らしに結び付いた生業が残っているが、城下町地区には職人集団の伝統が残されていない。衣服身の回り品や金物細工など、江戸中期以降に各地で奨励されたヴァリエティに富む特産品が見られない原因である。長浜のガラス工芸のように新たに匠の技を持ち込んで成功した例もあるので、古いものにこだわらない工夫ができるのではないか。	特に「先人が残した技術や資産に新しい知恵を重ねて生業として継承する」ことをコンセプトにしていますが、意見にある「古いものにこだわらない工夫」についても否定するものではありません。
14	P 3 第3 パラ グラフの 次に追 加	第3パラグラフの次に将来人口推計と年齢別人口構成を記載する必要があるのではないか。ちなみに、国立社会保障・人口問題研究所の推計(平成25年3月)によると、30年後(2040年)の篠山市の人口は29,852人となっている。65歳以上人口は12,278人とでほとんど変わらず、高齢人口率は28.6%から41.1%へと増加する。また、平成12年の10～14歳人口は2,884人であったが、同22年の20～24歳人口は1,825人で、この10年で1,000人以上減少している。	計画案づくりの段階でも、日本社会が縮退期にあることが議論されましたが、創造的で前向きな計画となるよう表現しました。ご意見にある人口減少と少子高齢化による年齢別人口構成の変化については、第2次篠山市総合計画で触れており、本計画の大前提であることから、省略しています。
15	P 3 第4 パラ グラフ	「地域コミュニティをベースとした取り組みが特に重要です」は、「特に重視しました」が適切でないか。	「特に重視しました」に修正します。
16	P 4	この計画の指標設定と進行管理について1節を設けるべきでないか。計画のPDCAサイクルについて触れなければ、絵に描いた餅に終わってしまう。また、output指標とoutcome指標が示されていないと、関係者間の目標の共有や客観的な評価が難しい。	本計画をもとに定める地域再生法に基づく地域再生計画に、具体事業を記載する際に盛り込むこととし、その旨を記載します。
17	P 5 第1 パラ グラフ	定義は、「一般に」ではなく、出典を明記すべきでないか。	創造都市という概念が生まれてきた背景やユネスコの世界宣言、国内における考え方などを整理し、出典を明らかにしながら説明します。
18	P 5 第2 パラ グラフ	グローバリゼーションの原因は複雑で、市場原理主義に帰するのは浅薄かつ一面的ではないか。ここは「市場原理主義に基づいて」を削った方がいい。「地域固有の価値観や人間性」とは何か。近代国家にあつては価値観や人間性は普遍的なもので、地域ごとに異なるのは封建時代の話ではないか。「地域の特色が失われる傾向があると指摘されている」あたりが妥当か。また事態ではなく危惧あたりか。	創造都市という概念が生まれてきた背景やユネスコの世界宣言、国内における考え方などを整理し、出典を明らかにしながら説明します。
19	P 5 第3 パラ グラフ	「世界各地の創造都市では」というのも確かですか。NY ロンドン パリ ベルリン ミラノ 東京が含まれない創造都市など考えられない。「ユネスコの創造都市ネットワークに認定されている都市では」あたりが適切ではないか。	創造都市は、標榜している都市、第三者が創造都市と位置付けている都市など様々あると思われれます。ニューヨーク、ロンドン、パリなど、ご意見にある都市を除外する意図はありませんが、ご指摘の文章は、全体を見直す中で削除します。

No.	箇所	コメント・意見趣旨	回答
20	P 5 第3 パラ グラフ	市民のなかに、職人、芸術家、デザイナーは含まれないのだろうか。次パラグラフの「市民」には含まれていると思われる。	職人、芸術家、デザイナーも市民に含まれます。ご指摘の表現は、全体を見直す中で削除します。
21	P 5 第4 パラ グラフ	篠山に地域固有の文化があるといえるのか。例えば京文化とか摂丹様式というまとはあるが、篠山固有とは言えない。妻入りの民家群も裏日本に広く分布している。鯖寿司もぼたん鍋も広域的である。「地域に育まれた」でいいのではないか。	「はじめに」で記しているように、篠山市は京都文化等の影響を受けてきたと認識しています。そのうえで、篠山固有の文化が成立し、今日まで継承されていることが本計画の原案を審議した篠山市創造都市推進委員会でも指摘されています。
22	P 6 第3 パラ グラフ	創造都市ネットワークには加盟か、認定か。4項目が列挙されているが、これは自主的に決めるといふより、創造都市ネットワークが掲げる目標ではないか。そうであればその旨明記すべきではないか。	「加盟」です。「ユネスコ創造都市ネットワーク」の目的などを元にしなが、篠山市の視点で記述します。
23	P 6 第5 パラ グラフ	「先人たちが不断に磨いてきた技術と知識が農村の暮らしと産業を発展させてきた」というのは高度成長以前の話で、最近半世紀はまったく別ではないか。家庭電化、農業の機械化、農薬や化学肥料の普及、農業専従者の激減などにより、農村の暮らしと産業はまさに一変した。このため、先人たちの技術や知識はすっかり忘れられたというのが現実ではないか。それだからこそ、上段の「今後急速に経済発展の進む国への文化的貢献」が期待されているのであろう。	ご意見のとおり、近年、先人たちの技術や知識は失われつつありますが、篠山にはそうした技術や知識が完全に消滅せず、そこに残っています。だからこそ、そうした技術や知識に光を当て、未来を包含して創造的に展開させていく必要があると考えています。
24	P 6 【表】 24 創造都市と創造農村	この表は分かりにくい。たとえばグローバル都市の主なプレーヤーにグローバル企業が挙げられているが、どの大都市にもヴィレッジと呼ばれる創造産業の局地的な集団がある。東京でいえば渋谷のITヴァレー、下北沢の小演劇、原宿の竹下通り、大阪ならアメリカ村、神戸の乙仲通りなどが著名な例である。極言すれば、こうした多数の小さな核が大都市の創造力の源泉であり、新しいファッションやライフスタイルを生み出している。創造農村では、匠とか職人と呼ばれる個人が主要なプレーヤーの役割を担っている。また、生産システムでは手づくりが特色だろう。（経済システムというのはおかしい）。マーケットも、集積というのとは違うのではないか。グローバル都市ではサプライ優先型、創造都市では需要優先型、創造農村は需要創造型でどうか。あるいは産業組織論の考え方を借りて、範囲の経済と連結の経済で説明することもできる。創造農村が有機的にクラスター化したのが創造都市であり、創造都市がまた補完的に集合したのがグローバル都市というのが立地論あるいは都市経済論の見方である。さらに経営学の第一人者マイケル・ポーターの競争の戦略の視点を取り込まなければ、篠山に進出しようと考えている企業人は納得しないだろう。	この表は、平成24年度に実施した第2回創造農村ワークショップや「食」「祭」「古民家」「工芸」をテーマにしたプレワークショップで話し合った内容をもとに、抽象的で分かりにくいイメージのある創造都市、創造農村とグローバル都市の特徴を対比させることで理解を助けるために作成したものです。学術的根拠に基づいて作成されたものではなく、誤解を招くことのないよう、その旨注釈します。また、どの大都市にもヴィレッジと呼ばれる創造産業の局地的な集団があることはその通りで、東京や大阪、神戸などの大都市はグローバル都市的な特徴と創造都市の特徴を合わせ持つ都市であると認識しています。
25	P7 囲み 記事	「難しい表現」は「抽象的な表現」の方が適切ではないか。4行目の「多く受け継いでおり」の「多く」は不要ではないか。	「創造農村」という表現が難しいという意見が多くあったため、このように記載しました。「多く」については削除します。

No.	箇所	コメント・意見趣旨	回答
26	P7 囲み記事	5行目「今でも色濃く残る一方、市民が自発的にまちづくりにかかわる知縁型の活動も芽生え、賑やかな議論があちこちで…」。総合計画を受けた「篠山市の参画と協働の指針」では、まちづくりに関わる市民活動を地縁型活動とテーマ型活動の2つのタイプに区別している。整合を図るべきではないか。	「篠山は地域コミュニティが今でも色濃く残り、従来からの地縁型の活動に加え、テーマ型の活動も芽生え、市民が自発的にまちづくりに関わる賑やかな議論があちこちで起こっています。」に修正します。
27	P7 創造産業とは 囲み記事	英語の原文をみると、脱落箇所と不適切な訳語がある。大事な文章であり、適切な表現にすべきではないか。	英語の原文を改めて訳してみましたが、この表現が適切であると考えます。
28	P7 第3パラグラフ	経済産業省が実施した報告書とあるが、これは間違い。『創造産業に関わる知的財産権等の侵害実態調査…』は野村総研に委託した報告書に過ぎず、ここで引用するならこの報告書を踏まえて本年1月に経済産業省が策定した『クール・ジャパン戦略』が適切でないか。	経済産業省が「クール・ジャパン戦略」で示しているクリエイティブ産業の特徴は、表現が難しいため、より理解しやすい内容となっている計画（案）に記載した原文を出典を明確にして採用します。
29	P7 最終パラグラフ	創造産業にとって、人材と社会（関係）資本の役割が決定的に重要だと考えられるが、ここではほとんど触れられていない。また、活動を生み出す場としての公共施設、たとえば美術館、博物館、図書館、音楽ホールなどの役割や創造都市づくりで評価されている他都市との連携（ネットワーク化）も触れられていない。いずれも、記載する必要があるのではないか。	人材、社会関係資本の重要性は認識しており、市民や地域コミュニティなど、人材と地域ネットワークについて触れています。「活動を生み出す場」については、事業計画全般のもとになる、取り組みの方針「まちづくりビークルの形成」の中で新たに触れます。また、他都市との連携については、その重要性から創造都市ネットワークへの参画していくこととしています。
30	P8 《先人が残した技術や資産》	《先人が残した技術や資産》に農業や林業など産業が挙げられているが、篠山だけの農業や林業はありえない。日本全体を論じるならともかく、ここで取り上げるのはどうか。	農業や林業そのものが篠山で築かれたものであるという意味ではなく、先人の技術や資産が篠山の農業や林業の中に残されているという趣旨で記載しています。
31	P8 《新しい知恵》	《新しい知恵》に組織キャパシティ強化（自力で成長する能力を引出し展開すること）や資金調達が加えられるのではないか。	組織キャパシティ強化は、組織育成に含まれる考えます。資金調達は追記します。
32	P9~11	黒大豆に3ページも割いているが、ほとんどが計画とは関係が薄い過去の話で、現状と将来についての明確な分析と数値目標はなにも示されていない。黒大豆でどれだけの人間を養えるのか、その展望なしに本計画が行動計画としての役割を果たすことができるのか。日本の企業の弱点は、経営者が過去の成功例に引っ張られて新しい環境に対応できなかったことにあると指摘されている。他の野菜産地は生産性向上のために規模拡大、企業経営への転換、年間出荷など「イノベーション」を図っているのに黒大豆がこれでいいのかという疑問に答えていない。	抽象的で難しい創造産業を、市民にも馴染みのある黒大豆を例に説明したものです。篠山を代表する特産物である黒大豆も、継承と革新が繰り返されてきた結果であり、今後も新しい環境に対応する創造性が必要であることを表現しています。